

哀しく美しいメンデルスゾーン、深くドラマティックなチャイコフスキー。
この2大名曲ヴァイオリン・コンチェルトはステージに立ち始めた50年前から、
ずっと私の憧れの存在であり続けてきた。
時に私を包み込み、或いは拒絶し、そして私を導き、その見つめる方向を指し示してくれた。
祈りのバツハと共に平和を祈り、痛む心を慰められ、
心躍るサラサーテはヴァイオリンという楽器の面白さを教えてくれた。
デビュー50周年の節目を迎えた今、この名曲を皆様に聴いていただける喜びを音にしたい。
我が相棒であるストラディヴァリウス“デュランティ”をこの胸に抱え、
この日、感謝を込めて愛しの旋律を奏でたい。

千住真理子 2025年

あきこ



© 笹口悦民

千住 真理子 (ヴァイオリン)

Mariko Senju, Violin

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。これまでに多くのCDをリリース。最近では2023年11月に千住明のプロデュースによるアルバム「ARIAS」をリリース。また山田洋次監督作品「こんにちは、母さん」のサウンドトラックに参加。2024年にデビュー当時の音源も収録したアルバム「ベスト&レア」を、2025年はデビュー50周年を迎え「メンデルスゾーン&チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲」をリリース。コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)母との共著「母と娘の協奏曲」(時事通信社)など多数。

千住真理子オフィシャル・ホームページ
<https://marikosenju.com/>



© Naoyasu Uema

岩村 力 (指揮)

Chikara Iwamura, conductor

早稲田大学理工学部電子通信学科および桐朋学園大学演奏学科を卒業。マスタープレイヤー指揮者コンクール優勝ほか、数多くのコンクールにて入賞。これまでにハンガリー響、N響等国内外のオーケストラを指揮し高い評価を得ている。また07年にはアルゲリッチの要請により、イタリア/コルティナにてパドヴァ室内管弦楽団と共演し国際的に活躍。国内オーケストラの定期演奏会では日本人作曲家の作品を取り上げ高い評価を博す。また、近年はナレーター・朗読家としての研鑽も積み、ライブや収録において演出などで新しい展開を重ねている。

2000-07年NHK交響楽団アシスタントコンダクター。

2010年より兵庫芸術文化センター管弦楽団レジデントコンダクターを務めている。

2015年、兵庫県功労者表彰(文化功労)受賞。



© Y.Fujii

札幌交響楽団

Sapporo Symphony Orchestra

札幌交響楽団は1961年に発足し、北海道唯一のプロ・オーケストラとして「札幌」の愛称で親しまれ、透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は雄大な北海道にふさわしい魅力を放つオーケストラとして常に人気を集めている。

歴代指揮者は名誉創立指揮者の荒谷正雄、ペーター・シュヴァルツ、岩城宏之、秋山和慶、尾高忠明、マックス・ボンマー、ラドミル・エリシュカ、マティアス・バーメルトなどが務め、現在は、名誉音楽監督 尾高忠明、友情指揮者 広上淳一、首席客演指揮者 下野竜也、正指揮者 川瀬賢太郎を擁し、2025年4月からエアラス・グランディを首席指揮者に迎えた。2024年4月現在の団員数は、コンサートマスターを含めて74名。年間の公演回数は道内外で約120回のオーケストラ・コンサートを行うほか、積極的に地域活動に参加し、小編成での教育福祉活動を北海道全域で展開している。50周年のヨーロッパツアーなど節目ごとに海外公演を行い、これまでにアメリカ、英国、ドイツ、イタリア、東南アジア、韓国、台湾を訪問、各地で好評を博した。北海道を拠点に世界に発信するオーケストラとしてますますの充実と発展を目指している。

MARIKO SENJU DRAMATIC CONCERTO